



チ 5
3773



門子多
927
卷

門子5
3773
卷

小松か原

洛の西川風流の姿を思ひくす其妙

ありて画中に情あり筆はほろこ

ありてふふ人志あり色も此紫の

朱を奪ふも今乃

都の洒落な花の

あふ雨乃ゆえ

焼筆とけりや

しるしと

しるしを志の名

菊秀軒の社に





是を虫けりめ失いゝ家
 水心なれ業るりく櫻木
 うさひはととや集るる艶
 花を題
 小松の魚とや世に縁を
 好人乃
 助とれしゆんと乞新し
 海や深淵野の
 影を色ぬ引残さねし
 若緑の志り赤や
 夕のりゝ此を苗れ枝葉
 とささく

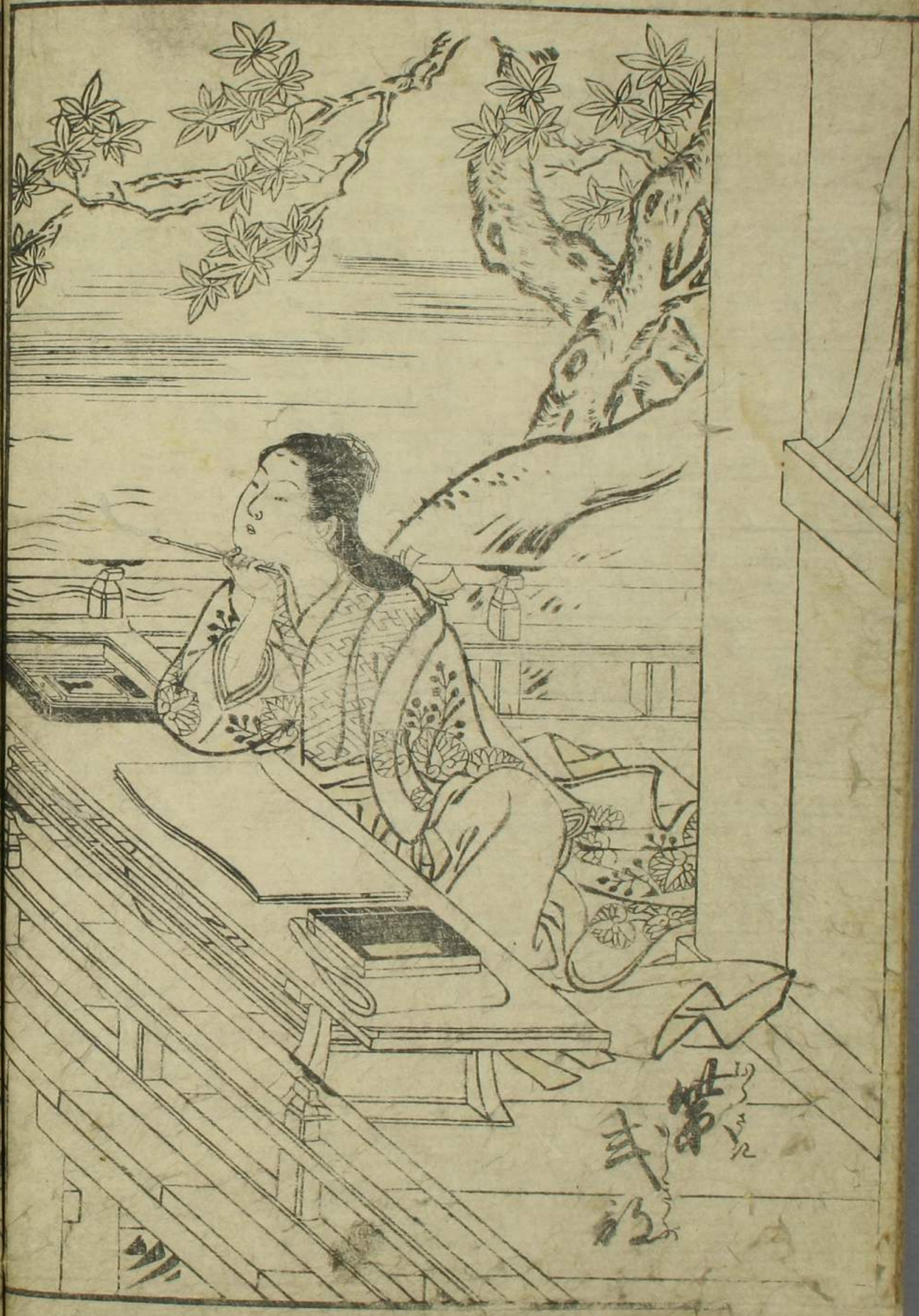
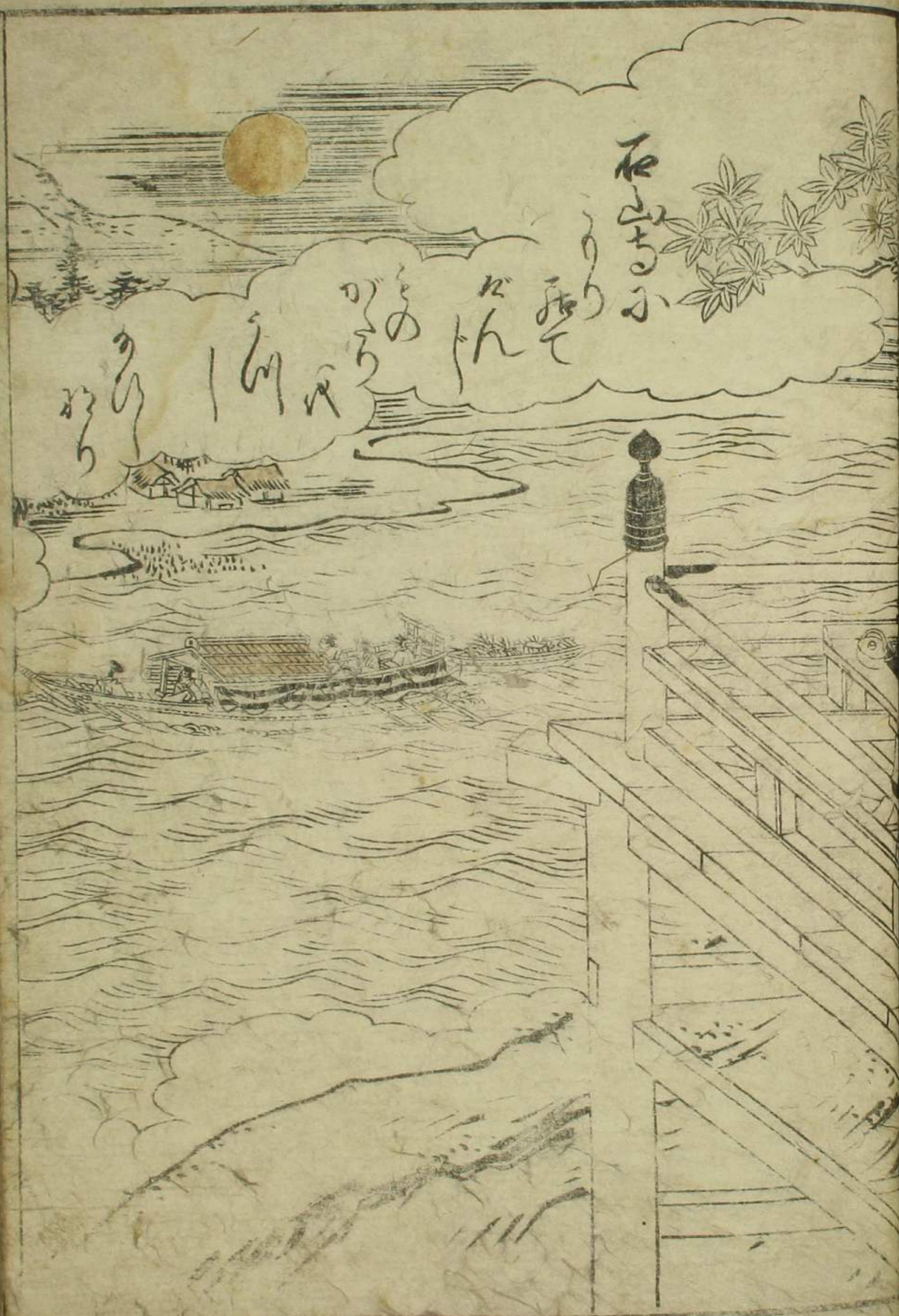
空をけり初ま

何津ま

松雨









牛若丸
の
の
の
の
の



海
の
あ
り

井筒いづな



おん

ひさり
あや
あや
あや

あや
あや
あや
あや
あや
あや



あや
あや



五の娘



五の娘



河
の
女
天



西
の
神



初子
の
小松原



月を
夜を
かき

長夜三人







とら
久ん
ひら
ハ
ル
梅



御祭

御祭









平堂西川祐信



寶曆十一年己正月吉日

寺町通松原下町

京都書林 菊屋喜兵衛版

心文
ハチノイ

種子島直次